



輸血用血液製剤の供給について連絡調整

「災害時における赤十字血液センターの役割」

日本赤十字社の事業に血液事業というものがあります。みなさんご存知の献血や、病院での輸血など「日赤」のイメージとして血液事業を思い浮かべる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

47都道府県すべてに赤十字血液センターは存在し、それを7つに分けた「ブロック血液センター」が代表となり、血液センターは運営されます。

仮に災害時に被災地域にある血液センターが甚大な被害を受けたとします。

前述のブロック血液センターは、そういった災害時にも近隣の被災県をカバーし合える仕組みにもなります。

例えば山形県赤十字血液センターの機能がストップしても、東北ブロック血液センターが、迅速に東北管内の血液センターと連携し、絶えず血液を供給し続けます。それでも足りないときは関東・甲信越ブロックの力も借りて血液が不足することがないよう体制をとっています。